

視察報告

第24回全国産業教育フェア宮城大会（さんフェア宮城2014年）

○テーマ：繋げよう・広げよう・伝えよう みやぎから

岡山県立玉島商業高等学校 行成貴由

1 開会式

1月8日（土）・9日（日）で行われた、第24回全国産業教育フェア宮城大会は、開会式から東日本大震災に際しての各方面からの支援に対するお礼から始まり、復興の状況や現在の県民や高校生の生活の様子など復興へ向けて前進していることを感じさせるメッセージを随所で発信しながらの開会式であった。

また、仙台商業の瀬川登志也生徒実行委員会委員長のあいさつの中で、「これからの宮城の復興に貢献する人材育成を紹介するとともに、全国から頂いた励ましやご支援への感謝の気持ちを表す大会となっています」という今大会を象徴するような立派な挨拶が印象的であった。



（開会式）

2 各会場視察

開会式後の高校生の「すずめ踊り」で幕開けとなり、名取体育館の復興関係展示などは今大会の特徴的な展示であった。名取市文化会館の「こごたC a f e」（宮城県支援学校）は生き生きとした生徒の動きで、大勢の人が押しかけていた。また、メディアでも取り上げられた「高校生レストラン」（明成高等学校）は開店前から長蛇の列で、開店1時間で完売し人気であった。レストランで食事をしたが、調理科の店舗であったため、メニューは2種類（授業での中華料理の集大成）で価格も600円と充実していたが、商業の目線から考えた場合接客やお客の待ち時間などに課題があったように思う。

宮城県の商業高校は12校とお聞きしたが（公立・私立合わせて）展示販売参加は、

仙台市立仙台商業高等学校	仙臺サイダー、杜の美豆璃
石巻市立女子商業高等学校	鯨大和煮
宮城県志津川高等学校	缶バッチ、ストラップ
宮城県一迫商業高等学校	米ていら
宮城県石巻工業高等学校	かりんとう
宮城県大河原商業高等学校	ポテトチップス大河原の梅味

であった。各地域の特色を生かした販売品であったが、宮城県大河原商業高等学校のポテトチップス大河原の梅味はカルビーより、県内スーパーで販売されているご当地限定品になっていて、生徒もやりがいをもって販売していたのが印象的であった。



(開会式すずめ踊り)



(展示会場)

また、各県の展示も充実し、北海道札幌東商業高等学校は「北海道の商業高校の取り組みを全国に発信！」と全道的な観点からの発表や、青森県立黒石商業高等学校は「こけしとチェスのコラボ商品こけス」を使い、チェスゲームができるアイデア商品の実演もあった。

2日目は、作品・研究発表を視察し、10校の発表があったが商業関係では、

北海道千歳高等学校

A gift from the North

宮城県宮城野高等学校

バカロレアに見る日本教育再生計画
～融合による教育イノベーション～

の発表があった。特に宮城野高校は、本委員会教育課題研究委員会でも参考になる発表で、「グローバル化に伴いグローバル人材の確保の急務性や、受け皿である日本社会が多様性を尊重し、変化に柔軟にならなければ、海外市場の獲得は難しく、未来を生きる子どもたちの教育を考えれば、高校・大学が変わっていくべき」という発表を展開し、その上で「生きる力」を養うバカロレアを日本型教育が転換するための1つの触媒になりうる。」と結んでいる。

3 視察を終えて

冒頭にも述べたが、第24回全国産業教育フェア宮城大会は、東日本大震災からの復興への現状や高校生の生活の様子など、東北全体が前進していると感じさせるメッセージを随所で発信しながらの大会であった。仙台空港から空港線のとって仙台への移動の途中で仮設住宅や真新しい建物が目に入ってくる様子が、大震災の記憶を蘇らせるものであったが、その中で逞しく生活する県民、学習や部活動に頑張る高校生の姿が象徴的な大会であった。

各学校多くの生徒が参加し、部活動のバックをもった生徒も各会場で多く見かけ、全県を挙げて成功さそうとする意気込を感じた。テーマである「繋げよう・広げよう・伝えようみやぎから」を実感できる素晴らしい第24回全国産業教育フェア宮城大会であった。